

第42回 日本体外循環技術 医学会大会 共催ランチョンセミナー

日時 2016年10月22日(土)
12:20 - 13:10

会場 タワーホール船堀
イベントホール平安
〒134-0091 東京都江戸川区船堀4-1-1

PROGRAM

演者

George Justison CCP
University of Colorado Hospital



演題

Goal Directed Perfusion (GDP) と
LivaNova Inspire 6人工肺を用いた
灌流管理の最適化

* Justison氏の略歴と当日の要約は裏面をご覧ください。

座長

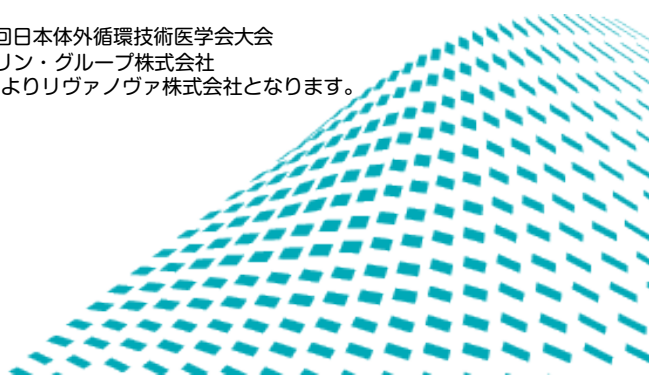
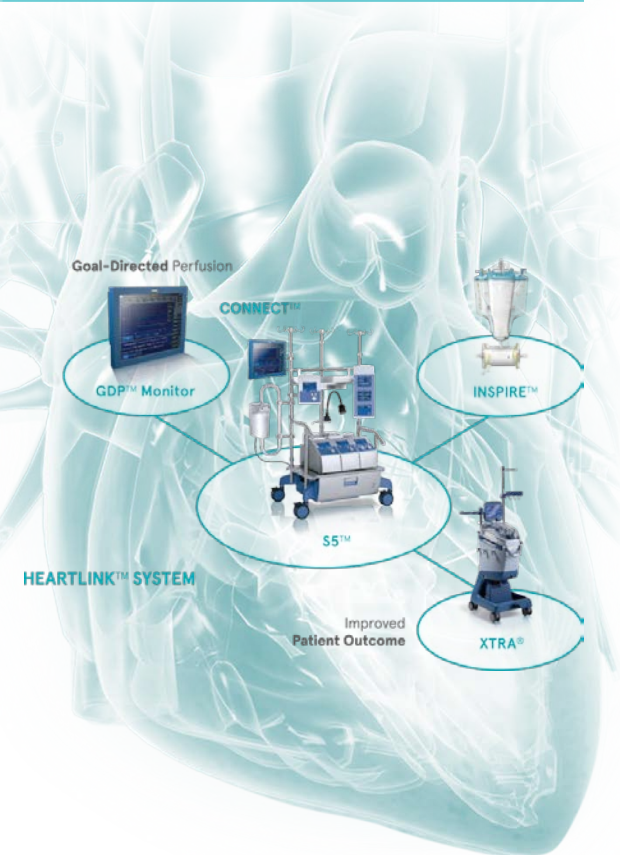
長島 耕平 先生
東京ベイ・浦安市川医療センター
臨床工学室 CPBチームリーダー

※共催セミナーはランチョンチケット制となります。
(配布場所・配布時間に関しては別途お知らせ致します。)

お問い合わせ

TEL. 03-3595-7630 FAX. 03-3595-7631
yuri.toyoyama@livanova.com
ソーリン・グループ株式会社 豊山

共催：第42回日本体外循環技術医学会大会
ソーリン・グループ株式会社
10/1よりリヴァノヴァ株式会社となります。



ジョージ・ジャスティソン CCP コロラド大学病院（アメリカ合衆国）

【略歴】

Justison氏はアメリカ・オハイオ州立大学医学部の医療専門学校を卒業し、アメリカ国内の複数の大学病院や私立病院での職務経験を30年以上持っています。現在はスペシアルティ・ケア（派遣会社）を通し、デンバーにあるコロラド大学病院のアンシュッツキャンパスに勤めています。彼は25以上の研究、発表、そして文献の著者をしており、2012年にはAmSECTよりその優れた発表に対しフェローシップ賞を受賞しています。また、Seminars in Cardiothoracic and Vascular Anesthesia（心臓外科と血管麻酔のセミナー）という医学誌の編集員も勤めております。

Goal Directed Perfusion (GDP) と LivaNova Inspire 6 人工肺を用いた灌流管理の最適化

【要約】

最適化された人工心肺回路のデザインには、体外循環回路（ECC）の構成品の選択と患者管理の両方の本源が含まれる。最適化された体外循環回路のデザインには、接触表面積が減少された構成品の組み込み、ダイナミック・オペレーティング・ボリューム（DOV）の改善、そしてガス状微小塞栓（GME）からの保護の向上が含まれる。改善されたECCの構成品の性能と吸引血の管理を組み合わせた効果は、患者転帰の向上に関連付けられてきた。最適化された灌流管理は、正しい構成品を選択する以上に、人工心肺中の患者のモニタリングと管理の向上も含まれる。

Goal Directed Perfusion (GDP) は、従来からある適正灌流の管理基準より優れた患者の細胞呼吸のモニタリング方法である。低酸素供給、そして酸素消費量と炭酸ガス産生量とのアンバランスのような人工心肺中の危機的状況の早期発見は、パフュージョニストに早期介入と患者転帰の向上を喚起することができる。GDP管理アプローチを用いることにより、人工心肺後の臓器機能の改善と急性腎障害（AKI）の発症率の抑制に関連付けられてきた。

このプレゼンテーションでは、コロラド大学病院におけるECCと灌流管理テクニックについて説明する。自動記録装置、Connectの一部としてあるGDPモニター機能と人工肺、LivaNova Inspire 6を使った最適化された人工心肺回路との組み合わせにより、一種類のECCパック（人工心肺回路）で全ての患者において最小化された人工心肺と先進的なモニタリングの利益を最大化させることができた。最適化された灌流管理のために必須として我々の人工心肺ガイドラインに含まれる下記のテクニックについても説明をする：

- 全ての患者に対し一種類のECCをデザインする
- GDPモニタリングと輸液管理
- 人工心肺中のGDPモニタリングとマイクロサーキュレーション（微小循環）
- 超低体温循環停止法と選択的順行性脳灌流時のGDPモニタリング